

令和5年度第2回地域学校協働活動推進委員会会議録

- 1 日 時 令和6年3月 28 日(木)午後3時半から午後5時まで
- 2 場 所 狛江市役所防災センター401・402 会議室
- 3 出席委員 波瀬委員長、角田委員、内海委員、櫻井委員、塚越委員、吉田委員(統括コーディネーター)、鷺見委員、植木委員、松岡委員、鎌谷委員 順不同
- 欠席委員 大山委員、工藤委員、富田委員
- オブザーバー 石谷地域学校連携支援マネージャー
- 事務局 上田調整担当理事、須藤係長

4 議 題

- (1)本部の取組みについて
- ・事務局報告
 - ・統括コーディネーター報告
- (2)コミュニティ・スクールの今後について
- (3)その他

5 資料

- 資料1 令和5年度(後期)地域学校協働活動報告
- 資料2-1 狛江市地域学校協働活動推進事業メニュー(各校実施分)
- 資料2-2 狛江市地域学校協働活動推進事業メニュー(市コーディネート分)案
- 資料2-3 狛江市における地域学校協働活動紹介
- 資料2-4 統括コーディネーター執筆集
- 資料3 地域コーディネーターアンケート集計結果報告
- 資料4 コミュニティ・スクール通信
- 資料5 令和6年度の地域コーディネーターの配置について
- 資料6 令和6年度の会議開催スケジュールについて
- 資料7 令和5年度第1回地域学校協働活動推進委員会会議録
(参考)とうきょうの地域教育 No.150

6 会議の結果

開会

- ・委員長より挨拶
- ・事務局より配布資料の確認

議題(1)本部の取組について

- ・事務局報告
- ・統括コーディネーター報告

事務局が資料1・2-1・2-2、吉田統括コーディネーターが資料1・2-3・2-4・3に基づき、本部の取組について説明を行った。

●質疑

○オブザーバー

地域学校協働活動カレンダーについての紹介があったが、3中ゾーンでも何らかのカレンダーを作っており、予算が少ないと聞いた。

○事務局

コミュニティ・スクールの取組と地域学校協働活動の住み分けは難しいが、そのカレンダーは、学校行事等も含め分かりやすくまとめたものなので、どちらかというコミュニティ・スクールの内容だと思う。

○委員

コミュニティ・スクールの予算としては消耗品を用意している。カレンダーなど各ゾーンで使って欲しい。

○委員

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動は一体的なもの。学校の主体的な取組なので、一つの在り方として、各ゾーンで参考にされたらよいと思う。

○委員

様々な取組があり、よいと感じた。PTAなどは、どのように関わっていけばよいだろうか。

○委員

PTAは、保護者と教職員からなる社会教育関係団体であり、地域学校協働活動は、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことである。

○委員

地域学校協働活動は、いわゆる活動なので、活動にあたって、例えばPTA連合会から各PTAに対して協力をお願いしていただくなど、一緒に取組ができるとよい。

議題(2)コミュニティ・スクールの今後について

石谷地域学校連携支援マネージャーが資料4に基づき、コミュニティ・スクールの今後について説明を行った。

●質疑

○委員

他市が狛江市のコミュニティ・スクールを視察に来たと聞いたが、どのようなきっかけだった

のか。

○オブザーバー

コミュニティ・スクール通信をインターネットで見て、視察に来られたと聞いている。

○委員

地方でも、小中一貫、小中連携は課題になっている。狛江市は全市的にゾーンができているので、決して悪くはない状況。

○委員

PTA 不要論などもあるが、実態としては人が必要であるから、様々な場所で地域の同じ人が動いている。それでよいのか。また、公立中学への進学率なども関係してくるのか、活動が熱心な地域や冷ややかな地域もあると思う。

○オブザーバー

私立は建学の精神があるが、公立の強みは、まさに地域にあると考える。地域と共に小中連携をさらに進め、それを各ゾーンで広報できるとよい。

○委員

児童生徒主体のあいさつ運動の紹介があったが、あいさつ運動などを行う際に、大人だけでは不審者と思われてしまうのではないかと気にしていたことがある。そういう意味では、子ども主体のあいさつ運動ができると、大人としても運動しやすいと感じた。

○オブザーバー

狛江第五小学校では、おやじの会がやっている。子どもの父親も巻き込めると、活動の若返りができるし、防犯にもよい。

議題(3)その他

○委員長

最後に事務局から、連絡をお願いします。

○事務局

令和5年度は、各校1名の地域コーディネーターの配置を行っていたが、地域コーディネーターの配置を増やしたいとの要望があったため、令和6年度からは、活動の状況に応じて、地域コーディネーターの複数配置を認める。

また、地域コーディネーターは1名あたり1校の担当があるが、既に他校と連携をしている地域コーディネーターもいることから、複数配置を契機に、必要に応じて、他校のコーディネーターと連携協力することについても運用上明確にする。

○事務局

令和6年度の会議開催スケジュールについて、決定したのでお知らせする。

閉会